

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	14S3004	院生氏名	石坂 勇人
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	肺がん切除術における手術後運動耐容能の影響因子について		
審査結果 (枠で囲む)	合格		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>肺がんは本邦での死因第 1 位の悪性新生物に占める割合やがん罹患率で上位を占めている。肺がん切除術は主たる治療法の 1 つで、その手術適応は拡大している。手術前後の心身の健康に関連した QOL (健康関連 QOL) や運動耐容能の変化を分析し、術後の円滑な社会復帰へ結びつけるための検証が必要である。そのニーズを反映すべく、術前後急性期での健康関連 QOL、運動耐容能の変化とその要因を検討した意義ある論文である。肺がん切除術による呼吸・循環・筋持久力発揮の変化を臨床で汎用されている 6 分間歩行距離試験成績 (6MWD) を指標としてその変化を多面的な要素から詳細に分析した点で本研究の新規性が認められる。</p> <p>論文の主たる構成は①肺がん切除術前後での健康関連 QOL と 6MWD 変化および両者の関連性の分析。②術前後それぞれの時期における 6MWD を規定する因子の検討。③術後に減少する 6MWD に影響をおよぼす要因検討の 3 課題で成り立っている (対象は平成 27 年 3 月から 28 年 1 月に肺がん切除術周術期リハビリテーションを受け各種測定に同意の得られた 58 名、平均年齢 67.4±8.1 歳、国際医療福祉大学倫理審査承認番号 15-Io-63 と獨協医科大学病院倫理審査委員会承認番号 27062)。</p> <p>まず課題①術後の健康関連 QOL と 6MWD は低下し、6MWD と QOL との関連性が認められた。術後早期の運動耐容能低下は、日常生活への不安とつながり、健康関連 QOL へ影響するため重要であることを明らかにした。課題②術前と術後では 6MWD を規定する要因が変化し、術前の主規定要因である心拍出量指標に加えて呼吸困難感や歩行中の酸素飽和度低下と関連した。課題③術後 6MWD 減少量に関連する要因として安静時心拍数の上昇および呼吸困難感の増加と高い BMI (肥満) が影響することを示唆した。これらから、肺切除による心身機能の変化を明らかにし、退院後の患者指導の一助となる結果を導き出したことは高く評価できる。</p> <p>審査会は 12 月 1 日に開催した。肺がん切除術前後での心身の変化と関連する要因を検討した意義ある研究だが、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、クリニカルパスとリハビリテーションプログラムを明示すること。</li> <li>2、対象症例の肺切除部位を記載すること。</li> <li>3、健康関連 QOL の所見は肺がん症例だけの特徴的な所見であるのかを考察すること。</li> <li>4、統計的な変数の取り扱いを詳細に記載すること。</li> <li>5、単相関に加えて年齢や性などを調整した偏相関を解析に加えること。</li> <li>6、飛躍した考察部分は文献を加えて丁寧な加筆、修正を加えること。</li> </ol> <p>などの質疑・応答がなされ、論文の修正を求めたところ適切に加筆、修正された。</p> <p>口頭試問においても適切に応答した。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 久保 晃</p> <p>副 査 深浦 順一</p> <p>副 査 糸数 昌史</p>		